

平成 29 年度 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムシラバス

<開講目的>

小規模病院等の看護職が、地元の医療福祉の担い手としてその役割を再認識し、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的とする。

科 目	看護の動向と課題	科目担当者	沼澤さとみ 佐藤志保
授業形態	講義	時間数	12 時間=90 分×8 回【6 時間（4 回）×2 日間】
学習目標	1. わが国の看護や看護教育の変遷と現状、今後の展望と課題等について学ぶ 2. 自己の看護体験のリフレクションや講義を通して、看護について考える機会とする		
授 業 計 画			
单元名	回	内 容	担当
看護の動向と課題 I	1	看護について考える ・看護経験のリフレクション	沼澤さとみ
	2	看護とは何か ・看護の原点、語源 ・看護理論家が考える看護とは	
	3	看護の専門性 ・専門職とは ・専門職としての看護	菅原京子
	4	変化している看護 ・疾病中心からヘルスプロモーションへ ・施設内看護～地域基盤看護へ ・看護の社会的責務 他	
看護の動向と課題 II	5～7	看護教育制度の変遷と現状 ・看護教育制度の変遷 ・看護基礎教育の現状と課題 ・看護教育課程の特徴 ・教育課程をめぐる最近の動向	沼澤さとみ
	8	・大学院教育、専門看護師等の認定制度 わが国の看護・看護教育の展望と課題 ・看護・看護教育の展望と課題について考える	
評価方法	試験・レポート		

科目	根拠に基づく看護	科目担当者	高橋直美 佐藤志保
授業形態	講義・演習	時間数	48時間=90分×32回【6時間(4回)×8日間】
学習目標	1. 講義や演習を通して看護実践の根拠を明確にし、既存の知識との統合を図る 2. 根拠に基づく知識と技術を確認する機会とする		
授 業 計 画			
单元名	回	内 容	担当
看護過程	1	・根拠に基づく看護とは	高橋直美
	2	・看護過程とは	高橋直美
フィジカルアセスメント	3	・フィジカルアセスメントとは ・フィジカルアセスメントの基本技術	沼澤さとみ
	4	・運動器系のフィジカルアセスメント	高橋直美
	5・6	・呼吸器系のフィジカルアセスメント	半田直子
	7	・消化器系のフィジカルアセスメント	半田直子
	8	・事例を用いたフィジカルアセスメントの実践	高橋直美
	9・10	・循環器系のフィジカルアセスメント	高橋直美
看護過程	11・12	・事例を用いた看護過程の展開	高橋直美
高齢者の看護	13・14	・高齢者の特徴 ・高齢患者のケア	(外部講師) 後藤 慶
認知症の看護	15・16	・認知症高齢者の特徴 ・認知症高齢者のケア	(外部講師) 吉澤理恵
災害看護	17・18	・災害看護とは ・トリアージの基礎知識	高橋直美
緩和ケアの看護	19・20	・緩和ケアとは ・緩和ケアの実際	(外部講師) 齋藤春美
リハビリテーションの看護	21・22	・看護におけるリハビリテーションとは ・リハビリテーションの実際	赤塚清矢 中野渡達哉
摂食・嚥下の看護	23・24	・栄養状態、摂食のアセスメント ・患者の状態別援助の実際	(外部講師) 梁瀬文子
褥瘡ケアの看護	25・26	・褥瘡のアセスメント ・褥瘡ケアの実際	(外部講師) 片岡ひとみ
糖尿病の看護	27・28	・糖尿病患者の特徴 ・糖尿病患者のケア	佐藤志保
急変時の看護	29～32	・急変時の看護とは ・急変時のアセスメントと看護の実際 ・事例から対応策を考える	(外部講師) 峯田雅寛
評価方法	試験・レポート		

科目	地域密着連携	科目担当者	井上京子 佐藤志保
授業形態	講義・演習	時間数	30時間=90分×20回【6時間(4回)×5日間】
学習目標	1. 地域医療連携の必要性やあり方を検討する 2. 地域包括ケアの現状と課題を抽出し、改善策を検討する機会とする 3. 連携をすすめるうえで必要な基本的スキルを習得する 4. 保健・医療等専門職および住民と協働して包括ケアを実践する方法を身につける		
授 業 計 画			
単元名	回	内 容	担当
地域医療連携	1・2	地域医療連携について <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携の必要性 ・医療従事者間の連携 ・住民力の活かし方 	菅原京子
	3・4	地域包括ケア <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアとは ・地域包括ケアシステムの構築 ・地域ケア会議の推進 ・地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の実際 	
連携のためのスキル	5～12	連携をすすめる上で必要なスキル <ul style="list-style-type: none"> ・連携におけるマネジメント力・コミュニケーション力 ・コーチングとは ・ファシリテーションとは ・ファシリテーションのスキル ・ファシリテーターの役割 	(外部講師) 醍醐孝典 (外部講師) 塩野貴美
地域医療の実際	13～16	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に応じた地域医療連携および地域包括ケアの現状と課題 (プレゼンテーション) ・地域の特性に応じた地域医療連携および地域包括ケアの現状と課題 (課題の改善策の検討) 	井上京子 佐藤志保
地域連携事例検討	17～20	事例検討 <ul style="list-style-type: none"> ・事例（紙上患者）に対する地域包括ケアの検討 	井上京子 佐藤志保
評価方法	試験・レポート		

科目	看護研究の基礎	科目担当者	今野浩之 佐藤志保
授業形態	講義	時間数	30 時間＝90 分×20 回【6 時間（4 回）×5 日間】
学習目標	1. 看護研究の意義を理解し、実践と研究を関連づけて捉える機会とする 2. 看護研究のプロセスを学び、研究計画書を作成する 3. 看護研究の講義や演習をとおして、理論的な考え方を身につける		
授 業 計 画			
単元名	回	内 容	担当
看護研究の進め方	1	身近に感じる看護研究 ・研究とは何か、研究をする意義、実践における看護研究の位置づけ、研究デザイン	今野浩之
	2	実践の振り返り ・実践の中で感じる疑問や改善点を考える（実践報告、事例報告を含める） ・これまでの看護研究について	佐藤志保
	3・4	文献検索 一気になる事柄について文献を調べる— ・文献検索の目的や意義 ・医中誌他文献検索の実際 ・各個人で関心のある文献を2～3編程度選定する	
質的・記述的研究	5～8	研究デザイン 一質的・記述研究— ・文献を読みながら質的・記述研究の基礎を学ぶ ・各々が選定した文献を読み込む（クリティーク含む）	今野浩之
量的研究	9～12	研究デザイン 一量的研究— ・文献を読みながら量的研究の基礎を学ぶ ・調査用紙の作成について学ぶ ・各々が選定した文献を読み込む（クリティーク含む）	後藤順子 今野浩之
研究計画の作成と発表のルール	13	倫理的配慮の基本 ・看護研究における倫理の必要性和原則	遠藤恵子
	14～18	研究計画書の作成 ・研究計画書に問われるもの、書き方等 ・研究成に向けて個々に作業 ・発表（1人15分程度）、まとめ	後藤順子 井上京子 今野浩之
	19・20	研究発表のルール ・研究発表の方法（学会・学術論文の書き方）、実践へのいかし方等まとめ 実践にいかす看護研究のまとめ ・看護実践研究センターの利用について	
評価方法	試験・レポート		